

2021年9月13日

## 原告意見陳述

冬瓜よしえ

【種井よしえ】

私はこの訴訟が始まった2012年から原告に加わりました。2011年3月11日に起きた東日本大震災、テレビの画面から映し出された地震直後の津波が押し寄せてきている画像は、この世の出来事で現実のものとは思えないくらい衝撃的な映像でした。そして、その直後に起きた福島第一原発事故。

「本当に大変なことが起きてしまった、何かしなきゃ、何か・・・。」私は何の迷いもなく原告団に加わりました。

私は当時、この裁判は2～3年で終わると思っていました。そして日本中、世界中の人々が私と同じように感じていると思っていました。3.11直後「原発やばっ」と感じ、全国の原子力発電所は停止していたのではないですか。あの当時は、10年後の2020年までには日本中の原発がゼロになって、そして人々が模索し知恵を出し合いながら新しい持続可能なエネルギーに転換し、2050年には自然エネルギー100%になると普通に信じていました。

ところがあれから10年。この裁判が未だ続いているなんてありえない、と思うのです。3.11以降、当然国の方針が転換をして然るべきだし、それ以外は考えられませんでした。なぜ、10年経った今、私がここで話をしているのか、このこと自体が不思議でならない、信じられない、今率直にそう思っています。

私は25年間石川県の公立小中学校の教員をし、3年前に退職しました。金沢市で生まれ育ちましたが、教員としての初めての勤務地は輪島市門前町の小学校でした。志賀原発からほど近い自然豊かな素晴らしい地域です。そのころアリス館志賀が建てられて、バス遠足で子どもたちと一緒に見学に出かけたことを覚えています。3年間能登で生活し、その後金沢市内へ異動となりました。金沢での教員生活の大半は中学校で保健体育の教科を担当してきました。保健体育という教科は、体育分野と保健分野があります。保健分野は一般的には、心身（からだ）の成長・発達、病気やけがの予防、運動スポーツの理論的なことを学習するといったイメージがあるでしょうか。中学2年生の教育課程に「自然災害による危険・障害の防止」という分野があります。教科書には、「地震などの自然災害が発生した時には、どのような危険が現れるでしょうか。」と課題が書かれ、震災による被害の写真、被災した中学生の作文、避難所の様子など様々な情報が取り入れられています。子どもたちには、日頃からどのような備えが必要か、災害時どのような行動が大切か、そして自分たちの地域で起こりそうな自然災害の危険についてなどを考えさせます。どの小中学校でも避難訓練として火災・地震・不審者対応などの場合を想定して取り組みますが、それとは別に、私は教科の授業で毎年、子どもたちと授業を通じて地震などの自然災害が起きた場合について、色々な話をしてきました。2011年以前は阪神淡路大震災の被災の様子、二次災害として火災が起こったことなど、自然災害の教訓として取り上げていました。教科書もまた、当時の写真や避難所で役に立ったものなどを紹介していました。現在の教科書は東日本大震災を大きく取り扱ったものが多いです。死因は溺死が第1位であるというグラフまで掲載しています。教科書の内容にあれこれ言うわけではありません。教えたい（学ばせたい）内容は何か、考えさ

せたい事柄は何か、どの教科であっても出発点は同じです。

自然災害の発生後に続いて生じる危険について話し合っていた授業でのことです。地震の直後の津波、土砂崩れなど 2 次災害が起こった時には、まずどこへ避難すればよいかを生徒たちと話し合っていた時に、「地震で原発事故が起きたら、どしたらいいがん？」と生徒から尋ねられたことがありました。情けない話ですが、どのような受け答えをしたかをはっきりと覚えていません。自分の中で、きちんと答えられなかったことを覚えています。

先日の朝刊で、62 歳の方からのある投稿が目にとまりました。『「原発は安全？」覚えていた先生』というタイトルです。

《投稿文～》小学校の同級生から手紙が届いた。89 歳になった担任の Y 先生から頼まれて私を捜していたこと、先生が私に謝りたいことがあると話していることがつづられていた。

50 年前、6 年生の遠足で地元・福島第一原子力発電所を訪ねたとき、私が何度も聞いたという。「先生、原発って絶対安全なの？僕は怖いんだけど」。あの時の私の瞳が忘れられず、事故が起きたとき、なんちゅう間違いを教えちゃったのかとどれだけ後悔したか、と。

原発がいかに安全で有用かの説明を受け、広大な施設の芝生でお弁当を食べた記憶はある。手紙には「原子力発電所見学」と題した私の作文のコピーが同封されていた。…(中略) 早速電話をかけ、「先生」とお呼びすると、後は言葉にならなかった。《～投稿文》

投稿者はこのあと、先生への感謝とご自身の考えを述べて締めくくられています。私は胸が痛みました。私自身、たくさんの過ちを犯してきたかもしれないと思いました。

大人たちも、子どもたちも、原子力発電所が安全だと思っていません。原発は、事故が起きなくても、そこで働く人たちが被ばくさせながら、周辺の地域を放射線で汚染しながら動いてきました。産業や人口が少ない場所へ押しつけるように原発を建てて電気を使ってきました。こういうことを、私を含め多くの大人はまじめに考えないで暮らしてきたのかもしれない。スマホ、エアコン、などなど私たちの生活は電気なしには成り立たず、電気を使うことで、豊かさ、便利さ、たくさんの楽しさを感じています。私の友人の中には、「電気は必要。電気代が値上げされたら困る。原発を動かさなきゃいけないなら、仕方がない。」という人もいます。仕方がない…つまり皆が、「原子力発電所が安全ではない」ことを知っています。

2011 年 3 月 11 日、大きな大きな事故が起きてしまいました。そこで暮らしてきた人の暮らしを奪い、たくさんの人の生活の糧を奪いました。これまでに繰り返されてきた、核の被害と原発事故被害は、「その時」だけでなく、とてつもなく長い間、ゴールが見えないくらい長い時間人々を苦しめ続けていることは明白です。今現在止まっている志賀原発を、なぜ稼働させることが必要なのか、活断層があるのになぜ必要なのか、私はまったく理解できません。人は技術的に可能なことならなんでもやってもよいということではないと思います。50 年先、100 年先の未来に生きる子どもたちに、なんと云えばいいですか。大人の都合で負の遺産を残しては絶対にいけないと思うのです。

放射能を生み出す原発を作り、それで電気を作る文明を発展させてきた現代社会に責任があるのなら、今その過ちを正し、誰もが安心して暮らせる未来社会へと舵を切るべきです。

志賀原発の即時廃炉と本裁判の一刻も早い結審をお願いし、意見陳述とします。